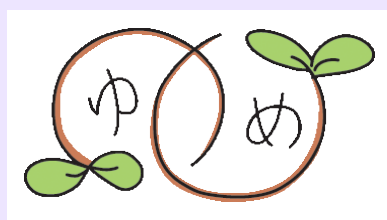
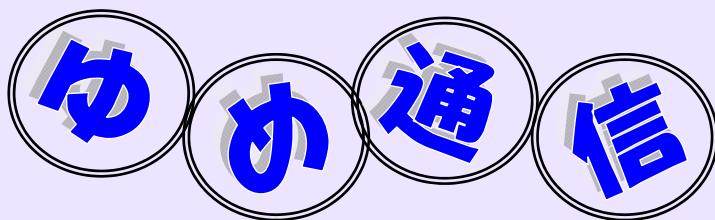


第11号

2009.2.27 Fri

地域づくり考房『ゆめ』



地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

“ゆめ”の由来・・・結芽ゆめ『ニーズの芽を結ぶ場所』+夢ゆめ+遊眼ゆめ『遊び心の視点を持つ眼』



学校法人松本学園

松本大学

考房『ゆめ』WORK-STATION開設



2009. 2. 11
地産地消のスイーツ商品開発

『ゆめ』のはばたき

松本大学副学長 小倉宗彦

平成20年度は松本大学の学生支援にとって画期的な年となりました。

大学・短大部ともに文部科学省の学生支援GPに選定され、本学の学生支援の内容が全国から注目されました。このGP選定事業で地域づくり考房『ゆめ』は松本駅西口に第2の拠点である分室を設け、新しいスタッフも2人増員となりました。これにより『ゆめ』はさらに市街地の中に根を張り、より地域の人々の息吹を感じる活動を展開することが期待されます。

松本大学のコンセプトである「地域の“幸せづくり”」に如何に学生諸君や教職員が貢献し、地域、学生、大学が共に育つために創設された『ゆめ』は、新村の大学内で大きく育ち、今まさに巣から羽ばたこうとしています。これからは、今までとは環境も違い、期待される内容も大きくなるものと思います。先行きの見えない昨今の社会環境の中にあって、松本大学が信州松本の地で全国に誇れる地域づくりを目指した教育、活動を全学あげて取り組み、地方私大のこれからのあり方の指針としたいものです。そしてそれらの活動を通じて学生のみなさんが大きく成長してくれることを最も期待します。

Topics

- ★ 地域づくり考房『ゆめ』WORK-STATIONオープン
- ★ 考房『ゆめ』発行の書籍紹介
- ★ 松本大学ブランド 地産地消の商品開発
- ★ 新村福祉システムネットワーク
- ★ 学生の地域連携活動
 - ・城北地区ふれ“愛”を育てる集い
 - ・チーム青い空
 - ・松本BBS会 他
- ★ ミャンマーサイクロン・岩手宮城内陸地震義援金贈呈
- ★ オープニングイベント みんなで楽しむまちづくり
- ★ つぶやき

松本駅
西口に
オープン!

松本大学 地域づくり考房「ゆめ」WORK-STATION

平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択された“若者の地域定着につなげる地域活動の支援—地域まるごとキャンパス「地域づくり考房『ゆめ』」の実践—”の一環として、考房『ゆめ』の分室が松本駅西口に開設されました。

この事業は、地域活動支援センターを中心市街地に設け、学生の地域実践を強力に支援し、学生の地域人教育をさらに推進していくことを目的としています。

ここでは、松本市街地活性化のため、産学官民の連携・協働による事業を展開していきます。多くの方々に利用していただき、地域と連携した事業展開をさらに推し進めていきたいと考えています。



相談カウンター



情報スペース



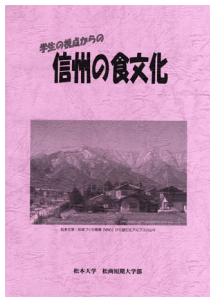
談話スペース

- ◆ 名称：松本大学地域づくり考房『ゆめ』WORK-STATION
- ◆ 住所：〒390-0817
松本市巾上4番16号 西口ビルディング3階
- ◆ 電話番号：0263-37-7210
- ◆ FAX番号：0263-34-7224
- ◆ E-mail：yume_work_station@yahoo.co.jp
- ◆ 開館日時：月～金 13:00～21:30
土・長期休暇 10:00～19:00



セニアカー講習会

考房「ゆめ」発行の書籍紹介



学生の視点からの
信州の食文化
400円



むかしからの
うまいもん
1000円



むかしからの
うまいもんII
1000円



幸せづくりと平和
400円

考房『ゆめ』では左記の書籍を発行・販売しております。購読ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。

TEL：0263-48-7213
FAX：0263-48-7216
E-mail：community@matsu.ac.jp

こっふる

昨年度、短大部の講義「地域と食文化」で地産地消の大切さを学んだメンバーが中心となって4月からこの活動が始まりました。現在の日本は小麦粉の大半を輸入に頼っているため、どんな環境でどんな生産者が栽培したかはわかりません。そこで、生産地の気候や風土がわかる県内産の米を使うことによって、食品の安全性を高めた上で、消費者に安心して食べてもらえるものを作りたいと思い、小麦粉の高騰により米粉が見直され始めたことにあって、米粉の商品開発を始めることにしました。

話し合いの結果、「懐かしいけれど新しい味」を目標に、懐かしい料理とは、今ではあまり食べなくなった、昔食べていたものだと思います、「地域と食文化」の講義でお世話になった及木老人クラブの方に米粉を使った料理を教えていただきました。それを参考に、米粉のワッフル「こっふる」を商品開発していくことにしました。

その後、自分たちが考えたアイデアで、生地にあずき、チョコレート、アーモンドなどを混ぜた具で試作を重ねていきました。具を混ぜたことによって、焦げやすくなる、色が悪くなるなどの問題点が出てきました。その都度、改善にも力を入れていきました。試作の途中、松本大学の卒業生で、パン屋を開いているベーカリー麦の穂さんに、ワッフルを作っていく上での知識や、材料を提供していただきました。

今年に入り、米粉を使ったパンやお菓子を販売しているあずさ夢工房さんをお願いし、こっふる生地の更なる改良、試作を行ってきました。粉の配分、牛乳や油の分量を様々な条件で試し、米粉は今まで使っていたものよりも細かいものを使うことにしました。そして、新たに発芽玄米粉、もち粉を混ぜることによって従来のこっふるより、しっとりし、もちもち感を出すことに成功しました。昨年からの試作を繰り返し活動を続けてきましたが、すべてが最初からうまくいったわけではなく、失敗もたくさんありました。1年かけて現在の形にし、3月7日に考房ゆめWORK-STATIONオープニングイベントでこっふるを販売することになりました。

商品開発や食品の扱い、マーケティングに対し初心者同然の私たちですが、先生方や地域の方々のお借りし、メンバーも学部や学科に関係なく、力を合わせて作ってきたものなので、一人でも多くの人手に届いてほしいと思っています。

(松商短期大学部商学科2年 野口真奈美さん)



3月7日の考房『ゆめ』WORK-STATIONオープニングイベントでこっふるを販売します。当日はプレーン、りんご、抹茶&大納言を販売する予定です。この機会に是非ご賞味下さい。

WORK-STATIONオープニングイベントの詳細については、ゆめ通信裏表紙へGO! →

みそスイーツ

1年生の食品学実験で味噌を使った商品開発を実施した時に、味噌プリンを試作したところ失敗しましたが、キャラメルを見てキャラメルなら行けるのではないかとこのきっかけで、味噌キャラメルを試作しました。

授業が終わってから一回はお蔵入りしましたが、須坂市が興味を持ったことや、松本市博物館での味噌の特別展でデモンストレーションとして味噌キャラメルを実演したなどをきっかけに、また松本大学ブランドとして取り上げる事などから、味噌キャラメルの配合や作り方に研究を重ね、満足行く商品に仕上げることができました。

味噌キャラメルの松本大学ブランドとして発売することを目標に、また味噌キャラメルが信州の名物となるように、さらに商品価値を高める工夫や、パッケージデザインを検討していきます。また現在、安曇野市のお菓子屋さんとタイアップし、製品化に向けて具体的に始動しようとしています。安曇野市では黒豆の味噌を使い、松本大学としては自作の味噌を使った味噌キャラメルを開発していこうと思います。味噌スイーツに限らず、松本大学発の商品を今後も開発していきたいと思っています。



(人間健康学部健康栄養学科2年 山口 留奈さん)

新村の福祉を**考**える

新村地区の高齢者等交通手段確保に向けて

新村福祉
システムネットワーク

新村住民有志 / 新村公民館
松本市河内郡地域包括支援センター
松本市 / 松本大学

新村福祉システムネットワーク

地域のお年寄りや学生たちの寄り処となっているお店での会話の中で、交通手段を持たないお年寄りにとって日々の買い物に困難なことが切実な問題として語られました。それを受け止め、「なんとかならないだろうか」と行政に連絡した店主。その声に、直接出向いて耳を傾け受け止め、地域の問題として調査しようと地域や松本大学に協力を求めた行政側。その思いを受け入れ、地域の問題をともに考えていこうと応えた大学と学生。調査が進むにつれ、「この問題は、我々の問題なのだ」と立ち上がった町会役員OB、民生委員、主婦、店主、公民館など、様々な分野の新村住民有志の皆さん。

アンケート調査をまとめ、考察していく中で、これからの新村の地域福祉を本気になって考えていかねばならないと、産学官民による「新村福祉システムネットワーク」という協働チームが生まれました。

活動 内容	8～9月	○新村地域で何が行えるのかを考えるための学習会と他地域視察研修会を実施 ●松本市公共交通システム学習会 ●安曇野市デマンド交通視察研修会 ●道の駅視察研修(堀金・伊那グリーンファーム) ●伊那市送迎ボランティアサービス視察研修会
	10～11月	○松本大学にて学生の学びを実践報告 ○研修会、学習会参加者によるふりかえりと今後に向け、新村でできることを整理 ○松本大学梓乃森祭・新村文化祭にてパネル展示 ○新村文化祭にて活動報告会・パネル展示 ○今後の住民主体の活動展開に向け話し合い



活動を行って

市村 一裕 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科 3年

最初は、地域の方からの交通の不安があるだけでした。市役所の方、仲間と共に試行錯誤の上、アンケート調査をしたのを覚えています。その後、19年度の任期を終えた新村の町会長や住民有志の方と一緒に活動していくことになりました。地域の方々の生の声を聞いたり、ともに作業したりして勉強になりました。ここまで進めていくことができたのは、メンバー同士で役割分担をし、互いに協力しながらやってきたからです。しかし、それは地域の方のサポートや福島先生のコーディネートもあって出来たことです。何かを始めるにも、一人では何も出来ないことが仲間と共にやることで様々な意見を取り入れることが出来、多くの視点から物事を見ることができ、乗り越えることができます。そのことをこの活動を通じて学ぶことができました。そして、何より1年間という長い時間の中で、行政や地域の方々とともに活動でき、地域の福祉を根本から考え行動するという貴重な体験ができたことを誇りに思います。数人の高齢者の意見で始まったこの活動を、地域の皆さんで今後も大きく発展させ、自分たちがやってきたことが新村の福祉に役立ってほしいと思います。地域の皆さんをはじめ、協力していただいた皆さんに感謝いたします。

報告を受けて

新村 道夫 新村地区連合町会長

この問題は本来ならば、新村地区で取り上げて考えていかなければならない問題です。これまでの調査研究報告を受けて、2つの問題についてふれてみたいと思います。

1つは、「交通手段をどうするか」です。松本市でも西部地区の公共交通について急ピッチで進められ、コミュニティバスの実験運行にまで進展しました。これが実現化されれば、新村地区の交通問題はだいぶ解消されます。しかし、停留所から離れている人達の交通手段への取り組みが未解決のままです。今後、町会福祉部を中心に町会、民生委員会がバックアップして実現可能な方向へ一歩進めたいと思います。

2つ目は、地区内にスーパーのようなお店をつくることです。158号バイパスの開通に合わせて、「道の駅」をつくり、日用雑貨をはじめ地区でとれた農産物も売れるようにすれば、買い物に行くにも容易になり、地区住民の雇用の場も広げられ一石二鳥です。今後の動向を注意深く見守っていく必要があると思います。

城北地区 ふれ“愛”を 育てる集い



11月28日に「城北地区の宝“ふれ愛”を育てる集い」が城北公民館で開かれ、人間健康学部の学生3人がレクリエーションを行いました。

人間健康学部で学んだレクリエーションの力を実践で活かしてみませんかというお誘いを考房『ゆめ』の福島先生からいただいたのが、今回の活動に参加したきっかけです。

私は2年間、犬飼先生、中島先生の下でレクリエーションを通してコミュニケーションをとる勉強をしてきました。自分がどれだけ実践で力を発揮することができるかチャレンジしてみようと思い参加することを決意しました。

今まで多くの活動に参加してきましたが、学生だけでの活動は今回が初めてです。参加者の姿勢や、年齢、性別、場所、時間などを考慮し、友達同士で様々なアイデアを出し合い、アイスブレイキングを行うことで、自然に笑顔になってもらえたらという目標を掲げました。

実際に活動を行ってみて、参加者に合わせた言葉がけが難しいと実感しました。しかし、それ以上に感じたことは参加者の方が「若い人と活動ができて楽しかったよ。どうもありがとう」「ご苦勞様でした」と笑顔で言ってくれた事です。とても嬉しかったです。

今回の活動を通して、物事をうまく運ぶ力、ゲーム間のスムーズな言葉がけといった多くの課題点を見つけることができました。しかし、大きな自信にも繋がることができました。今後もっといろいろな勉強をして、どんどん活動に参加し実践力を身につけていきたいです。

(人間健康学部スポーツ健康学科2年 玉代勢健太さん)

地域の方より

城北地区では「福祉や防災の基盤は、人と人とのふれ愛である。」という考えの基、4年前から集いを開催し、地区住民が互いに学び合っています。

第一部は、前回に引き続いてコーディネーターに福島先生をお迎えし、地区で行われている3つの活動実践が紹介されました。いずれも新しい取り組みであり、意欲的でエネルギーにあふれた事例に参加者は熱心に耳を傾けていました。

- 公民館を開放し、月1回のお茶のみ会—深志ヶ丘町会
- スーパー撤退後毎週1回町で市場を開催—徒土町有志
- 会の立ち上げ方と身体の健康づくり月1回開催—沢村町会櫻の会

第二部は、松本大学学生がリーダーとなり、参加者全員で“ふれ愛”のレクリエーションを行い楽しいひとときを過ごしました。6人位のグループを作り、協力して1つの事を行うゲームで、お互いふれ愛もいっぱいできました。久しぶりに華やいだひとときでもありました。

今、どこの町会も課題は若者の参加です。松本大学の若者が地域に係わってもらおう事で、逆にヒントがもらえることを期待しています。

(松本市開智 三村伊津子さん)



ミャンマーサイクロン・岩手宮城内陸地震義援金贈呈

昨年の7月から学生有志と学友会で行ったミャンマーサイクロンと岩手・宮城内陸地震の募金活動は、義援金として下記により寄付いたしました。

ミャンマーサイクロン災害募金は、10月24日に人間健康学部で行われた、ユニセフ・ミャンマー事務所保健栄養部の國井修氏による特別講義の冒頭、学生代表が35,000円を直接手渡しました。

また、岩手・宮城内陸地震募金は、11月17日に「くりこま高原自然学校支援基金」として40,667円を振り込み、各々現地の子どもの支援に当てていただきました。



チーム 青い空



私がチーム青い空の活動に参加した理由は、今までハンディキャップがある子どもに接したことがなかったので、いい経験が出来ると思ったからです。

チーム青い空は、障がいを持った子ども達とその親が中心になっている団体です。子ども達が親無き後でも生活していける環境やネットワークを目指しています。そこでは、障がい児と一緒にラベンダーを育てて販売する活動を行っています。多くの人にこのような活動があることを知らせてく、出来るだけ友達を誘って行きました。

初めは、どのように子ども達と接すればいいか悩みました。しかし、子ども達とラベンダーの新芽切りと挿し木の作業やブルーベリーの植え付けなどの活動を通じて、少しずつ話も出来るようになりました。自分の中にもう一つの世界ができ、人間として成長していくような気がしました。

人間は、世の中で一番大切なものであり、個人個人が個性を持っているからこそ、美しいものだと思います。ソーシャルワーカーを目指す私はこれからも人それぞれの「自分らしさ」を尊重しながら活動を続けるつもりです。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科2年

バック ジョンスク

朴 点淑さん)

地域の方より

チーム青い空は、ハンディキャップを持つ子どもとその母親22名の会です。将来、親無き後でもあたり前に生活できる環境とネットワーク作りを目標に、ラベンダーの栽培・販売を中心に“働く事”“社会のルール”を子ども達に教えながら、日々たくさんの皆さんに助けをいただき活動をしています。

若い学生さんから“障がい児と関わりたい”“ラベンダーやブルーベリーを育てたい”などと言ったパワーをお借りし、半年間月に1回の交流活動をしました。初めは障がい児にどう関わればいいのか…子ども達も若いお兄さんやお姉さんとどう関わればいいのか…両者戸惑いの中での活動でした。ラベンダーやブルーベリーの栽培作業を一緒にやる中で、学生さんと子ども達の距離も自然にくなりました。参加してくれた学生さんから「障がいがあっても無くても、自然に関わればいいんですね。これからは参加できる時は出来るだけ参加します。」と、とてもうれしい言葉をいただきました。

今年参加してくれた学生さんが、これからそれぞれの道に進んでも、若いパワーで“障がいの有無に関係なく自然に関わる大切さ”をいろいろな人達に伝えていっていただければありがたいと思います。学生さん本当にありがとうございました。

(チーム青い空代表 古田みのりさん)

松本養護 学校での 活動



私がこの活動に参加した理由は、福祉に興味があり、障がいのある人と関わってみたいという気持ちがあったからです。しかし、ボランティア募集のチラシを見て「楽しそう!」と思い、参加したいと思ったといった気持ちのほうが大きかったです。

活動は、松本養護学校の児童・生徒の休日を楽しく一緒に過ごすというものでしたが、私は週一回、学級の中に入れていただいて児童と朝の登校から下校まで、一緒に過ごしました。私がお世話になった小学部2年生の一日は、着替えから始まり、からだを動かしたり、音楽をしたり、給食を食べたり、掃除をしたりと私たちが通っていた小学校とほぼ同じ勉強をしています。

今まで障がいのある人と接する機会がなく、この活動が初めてだったので、子どもたちとどう接したらいいのか不安や戸惑いがとてもありました。なかでも声かけや、どこまで手を貸してあげたらいいのかといった点でとても苦労しました。しかし、それは活動していく中でだんだん経験とともに消えていきました。今では、この活動を通して自分に自信がついたと思います。ここで得たものを、またどこかで活かせたらいいなと思います。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科2年 小松 恵さん)

ふれあい健康教室



月1回、新村福祉ひろばで開催されているふれあい健康教室で、12月のクリスマス会を松本大学生3人が企画し、レクリエーションを行いました。



私が活動したのは、大学の近くにある、新村地区福祉ひろばのふれあい健康教室です。この活動を選んだ動機は、私が新村に住んでいるので、この地区の交流というものに興味を持ったからです。主にやることは、12月11日に行われる「クリスマス会」でのレクリエーションを企画することでした。「クリスマス会」は、地域のお年寄りの方と、新村保育園の年中さんを交えての交流会で、私を含めた3人は、30分間ほどでできるみんなにわかりやすい遊びを考えて、それを行いました。緊張しました。お年寄りにも子どもにも、安全で簡単な面白い遊びを考えるのは、とても苦労しました。結局、ボール遊びとフルーツバスケットになりました。皆さんに楽しんでもらえるか、とても不安でした。

しかし、最初から最後まで笑顔が絶えず、感想を聞いてみると、とても楽しかったと言われ、心からよかったと思いました。こういう機会はめったにないので、いい経験をしたと思っています。人との交流の場に携われたことに、感謝しています。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科2年 田中 秀和さん)

松本BBS会

非行に走ってしまった少年の立直りを支援する松本BBS会の活動に松本大学生5人が参加し、一緒にクリスマス会を楽しみました。



私達が参加している松本BBS会は、非行に走ってしまったり、悩みを抱えている少年少女達や、有明高原寮の少年達のよき兄・姉のような存在として、「相談相手」「遊び相手」になる活動をしているボランティア団体です。この活動に参加した理由は、私達にとって未知の世界だったので、そういう活動をしている人達の生き方を学び、自分の視野を広め、これからの生き方にプラスしていきたいと思ったからです。

12月に毎年恒例である有明高原寮でのクリスマス会に参加しました。このクリスマス会で私達はゲームを企画・運営したり、高原寮の少年達と話したりなどして楽しい時を過ごしました。クリスマス会を終えて、全員が楽しめるゲームを企画し運営する難しさを改めて知りました。また、悩みを抱えている子ども達と接するというのは、思っていた以上にうまくいくものではありませんでした。しかし、接する子一人ひとりと同じ目線に立ち、自ら積極的に近づいていくことで相手も徐々に心を開いてくれるということを知りました。どんな相手であってもその人を知ろうと自ら行動することが相手に近づける一歩になるということ、この活動を通して学びました。

この活動で、これからの生き方にプラスになることをたくさん見つけることができました。貴重な時間を過ごし、貴重な体験ができました。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科1年 北原保奈美さん、高野 綾さん)

地域の方より

BBS会は、非行に走ってしまった少年の立直りを支援する活動をしています。毎月の有明高原寮(少年院)訪問は活動の一つなのですが、例年12月はクリスマス会。ケーキやカード、当日のレクリエーション準備など会員の力を合わせる時です。今回は計画の段階から松本大学の学生の皆さんに参加していただき、いつになく賑やかで楽しい雰囲気です。準備をすすめる事ができました。その雰囲気が当日も有明高原寮の寮生に伝わり、お互いに自然と笑顔になる楽しい時間となりました。また、寮生にとっては楽しただけではなく、若い人がボランティア活動をしているという事も刺激だったようです。

日本のBBS運動は大学生が始めた活動です。現在は30代の会員が多いのですが、やはり若い人が活動する事に意味があるのだと改めて思いました。

少年院という場所、ケーキ作りから当日の準備まで慣れない事ばかりで大変だったと思いますが、学生の皆さんがいつも楽しそうで、私たち会員も元気をいただき勉強させていただきました。ありがとうございました。

(松本BBS会 小松寿美代さん)

WORK-STATION
オープニング
イベント

輪しよい

和しよい

話しよい

みんなで楽しくまちづくり

ワークショップDEわーく ~考えがわく・気力がわく・みんなでわくわく~

地域の方にWORK-STATIONを知ってもらい、今後より多くの方に活用していただくため、オープニングイベントを開催いたします。まちづくりに関心のある方や、これから学生と何かしてみたい方など、どなたでも入場無料で参加できますので、是非、お気軽にお出かけ下さい。

日時:平成21年3月7日(土) 12:30~16:00

場所:地域づくり考房『ゆめ』WORK-STATION(松本駅西口徒歩1分)

12:30~

オープニングセレモニー

松風連と十八会による地域連携和太鼓演奏!!

12:40~

げんとーく「縁が和をなすまちづくり」

日本における住民参加のまちづくり、まち育ての研究実践第一人者である延藤安弘氏の活気あふれる楽しい講演会!!

13:40~

ワーク☆ラリーDE縁がわ
一輪・和・話一

まちづくりの取り組みを紹介し合う情報交換会!!オリジナルグッズのプレゼントやパン、クッキーなどの手作り販売コーナーもあります!!

14:40~

縁がわDEネットワーク

会場にいる参加者全員で、みんなで進めるまちづくりについて考えるシンポジウム!!

15:40~

みんなで共創詩 Wish-poem 「希望の詩」

最後はみんなでまちづくりへの期待を込めた一行詩を集めて、共創詩を作ります!!

★*・☆*・° つぶやき ☆*・° ★*

松商短期大学部に入学してから、「地域と食文化」をはじめ韓国語講座や日本観光新聞の翻訳などの地域活動をやらせていただきました。中でも、信州の郷土料理「フキとホタルイカの煮物」を地元のおばさんたちに教わりながら一緒に作った時に、旬のフキを鎌で刈り取った事が印象に残っています。信州の美味しい料理を食べられる貴重な体験をしたり、地域交流で人々とのつながりを持つ中で、信州の自然と日本文化を身近に感じることができて、留学生生活を更に豊かに楽しく過ごすことができました。

(松商短期大学部商学科2年 ジョン ソウ 鄭 素宇)

インフォメーションへの問い合わせ“ゆめ通信”へのご意見・質問など、すべて下記へお願い致します。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

Tel: 0263-48-7213(直通) 0263-48-7200 (代表)

Fax: 0263-48-7216

E-mail: community@matsu.ac.jp

URL: http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto_u/yume/